

令和 2 年 4 月 16 日

次期バージョン (Ver.3.0.0) における更新予定の内容

次期バージョン (Ver.3.0.0) の β 版プログラムを公開します。現行バージョンからの変更点は、次の通りです。

● β 3→β 4 (令和 2 年 4 月 16 日) ●

<全般>

1. 項目名称の修正、ヘルプ及びインフォメーションの追加等の入力画面の修正を行いました。

<暖房設備/冷房設備>

2. ダクト式セントラル空調機において、室内側送風機の消費電力の入力下限値を 100 から 1 に変更しました。

<暖房設備>

3. 地域の区分が 5~7 地域の場合で、運転方式に「居室のみを暖房する」を選択した場合について、暖房設備の基準一次エネルギー消費量の算定において想定する温水暖房用パネルラジエーターの熱源機をガス潜熱回収型温水暖房機からガス従来型温水暖房機に修正しました。

<給湯設備>

4. 給湯専用型の電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機および給湯・温水暖房一体型の電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機 (暖房部：ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス) について、入力画面に品番検索の機能を追加しました。

<コージェネレーション設備>

5. 入力画面に品番検索の機能を追加しました。

<XML>

6. 保存した XML が読み込めない問題を修正しました。

以 上

● $\beta 2 \rightarrow \beta 3$ (令和 2 年 4 月 1 日) ●

<全般>

7. 住宅版の詳細入力画面を一新しました。

<外皮>

8. RC 造・S 造の構造熱橋部の熱損失が評価できるようになりました。この変更に伴い、外皮性能の評価方法において、当該住戸の外皮面積を用いず外皮性能を評価する（ここで計算）を選択した場合、以下の入力項目が追加されました。

- 木造・RC 造・S 造の種別
- 屋根／天井、壁、床の線熱貫流率
- 屋根／天井と壁、壁と壁、壁と床の熱橋の線熱貫流率

<給湯設備>

9. 台所水栓および洗面水栓の水優先吐水機能について、節湯の効果係数が日平均外気温度に応じて異なる効果係数を用いて計算する方法に変更しました。

- 2021 年 3 月まで：

分類	節湯の効果係数の種類	適用条件	係数の値
台所水栓 洗面水栓	水優先吐水機能	台所の水栓すべてが 2 バルブ水栓ではなく、かつ、付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「水優先吐水機能」を有する場合	0.70
		上記以外	1.00

- 2021年4月以降：

分類	節湯の効果 係数の種類	適用条件		係数の値
台所水栓 洗面水栓	水優先吐水機能	台所の水栓すべてが2バルブ水栓 ではなく、かつ、付録 K「節湯水 栓の構造」により規定される「水 優先吐水機能」を有する場合	日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が18℃より高い場合	0.70
			日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が18℃以下の場合	1.00
			上記以外	1.00

以 上

● $\beta 1 \rightarrow \beta 2$ (令和 2 年 2 月 25 日) ●

<全般>

1. 住宅版 S (簡易入力) から、住宅版 (簡易入力画面) に、名称を改めました。
2. エネルギー消費性能計算プログラム住宅版の入力画面 (簡易入力画面、詳細入力画面) の選択を、使用許諾条件の同意後に行うように変更しました。

以上

●β1（令和2年2月4日）●

<全般>

3. 入力項目を簡略化した、入力画面（名称：住宅版 S）を新たに公開しました。
 - 住宅版 S（簡易入力）では、暖房設備、冷房設備、換気設備、給湯設備、照明設備について設備機器の種類のみを選択してエネルギー性能を計算します。
 - 住宅版 S（簡易入力）は、住宅版（詳細入力）の入力を簡略化したものであり、計算方法に住宅版（詳細入力）との違いはありません。このため、入力した条件が同じであれば、住宅版（詳細入力）と同じ計算結果が得られます。
 - 住宅版 S（簡易入力）で入力した内容を保持して住宅版（詳細入力）へ移動する機能、および、PDF 出力の機能は、今回の更新では未実装です。これらの機能は、次回以降のβ版更新により、順次、実装される予定です。
 - 算定方法は、β1 公開時点では公式版プログラム（ver.2.7.2）と同じですが、令和2年4月以降、住宅版（詳細入力）の更新に合わせて、順次、更新します。

以 上